

## 巻頭言

特定非営利活動法人西日本胸部腫瘍臨床研究機構(WJTOG)会長 福岡 正博

特定非営利活動法人西日本胸部腫瘍臨床研究機構（WJTOG）は、肺がんなどの胸部悪性腫瘍患者さんの治療成績を向上するための臨床試験を企画・支援すること、さらに肺がん患者さんの療養を支援することを目的として平成12年に設立されたNPO法人です。現在では西日本を中心に全国から肺がんの専門病院約100施設、450名以上の医師が参加しています。わが国における死亡原因の1位は悪性腫瘍（がん）で3人に1人が“がん”で死亡している現状ですが、そのなかで最も多のが肺がんです。それは肺がんの早期発見が難しいこと、治療法が十分でないことによると思われます。治療成績の改善には、新しい有効な治療法を開発することが重要です。WJTOGでは、肺がんに有効な治療法の開発を目指して多くの臨床試験を行ってまいりました。その成果は世界的にも高い評価を受けています。現在、世の中には多くの情報が氾濫しており、治療を受けようとされる患者さんにとって最も適切な治療法は何なのか、どのように療養すればよいのか迷われることも多いことと思います。このたびWJTOGでは、肺がんに罹られた患者さんの治療の選択、療養の仕方などにお役に立つよう『ハンドブック よくわかる肺がん』を作成いたしました。日本肺癌学会では医師向けの『肺癌診療ガイドライン』を作成していますが、このハンドブックは患者さん向けとしてわかりやすくいたしました。

---

皆様は“エビデンス・ベースド・メディシン (Evidence-Based Medicine : EBM)”という言葉を聞かれたことがあると思いますが、日本語では“根拠に基づいた医療”と訳されます。EBMは、欧米はもとより、わが国においてもすべての医療行為において推奨されています。すなわち、“科学的な根拠のある医療を行うべし”ということです。科学的根拠とは、科学的および倫理的に適正に実施された臨床試験によって得られた結果（エビデンス）に基づいた治療、医療ということです。このハンドブックもEBMに基づいて作成しました。肺がん患者さんの治療、療養に大いに役立てていただきたいと思います。もし、わかりにくい点がありましたらWJTOGの事務局にお尋ねください。専門の医師が責任をもって対応させていただきます。

肺がんは治りにくいがんでありますが、新しい治療法も次々と開発されています。このハンドブックを参考にして適正な治療を受けられ、治療効果、クオリティ・オブ・ライフ (QOL : 生活の質) の向上がもたらされることを願っています。

(平成18年10月記)